

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
司会：広島総務部長	開会 これより、平成２７年度第１回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会を開催いたします。 司会は私、総務部長の広島でございます。よろしくお願いいたします。 この度は、美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る「美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会」委員をお引き受けくださり誠にありがとうございます。 今回、条例を改正しまして、この創生推進委員会の定数は１０名以内となっており、ちょうど定数の１０名の皆様方で構成されています。 この推進委員会の役割や創生総合戦略の策定につきましては、詳細は後ほどご説明させていただきます。 今後ともよろしくお願い申し上げます。 それでは、配布してございますレジュメの次第に沿って進行をして参ります。 委嘱状交付 ・土谷町長より委嘱状の交付を行いました。 美幌町農業協同組合 総合企画推進室長 城 裕幸様 美幌町森林組合 代表理事専務 石川 茂雄様 美幌商工会議所 専務理事 横山 清美様 美幌観光物産協会 事務局長 信太 真人様 北海道美幌高等学校 校長 岸田 隆志様 網走信用金庫美幌支店 支店長 吉江 仁様 美幌地区連合会 特別執行委員 村田 純一 様 北海道新聞社北見支社 営業部次長 端 浩規様 一般公募から、松木 美鈴様 一般公募から、水島 淳子様 美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会委員を委嘱します。任期平成２７年７月１３日から平成２９年７月１２日まで。 平成２７年７月１３日。美幌町長 土谷耕治。 町長挨拶
土谷町長	第１回目のまち・ひと・しごと創生推進委員会に出席賜りまして誠にありがとうございます。 ただ今１０名の委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。任期は２年であります。お忙しいところ大変ご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いいたします。 この、まち・ひと・しごと創生に係る事業につきましては、国は人口減少問題として取組を強めているところであります。 平成２７年度にこの計画を作るべく、ただ今委嘱状を交付させていただきました。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
土谷町長	今回の委員の構成につきましては、従来より変えておりまして、産業界や学問関係、言論、金融、そして労働、さらには住民の皆さまを巻き込んで、計画を策定するという、国の意向に基づきまして、この推進委員会を立ち上げさせていただきました。 また、オブザーバーに北海道オホーツク総合振興局の戦略策定支援担当部長が参画しておりまして、様々なご助言をいただけたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 ご承知のように、日本全体が人口減少に入っている、大分進行している状況であります。美幌町も例外なく、人口減少を招いている状況でございます。 国は、地方においても人口ビジョンを策定して、さらには、戦略的にこれを解決していこうということで、総合戦略を策定してほしいという方針であります。 これは、人口減少をどう防ぐのか、またどう人口増加に転じるのかについて、具体的に総合戦略において施策を練っていくことになります。 皆さま大変お忙しい方々ばかりでいらっしゃると思いますが、どうか任期期間中、美幌町に合った計画を作っていただきますよう、お願いをして、冒頭の挨拶に代えさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
司会：広島総務部長	事務局等紹介 会長、副会長の互選の前に、担当する事務局などの職員を紹介させていただきます。 まずは、役場内における総合戦略の意志決定機関であります「美幌町まち・ひと・しごと創生本部会議」です。本部会議は、町長を本部長に、副町長と教育長を副本部長として、庁内の各部局長と関係主幹数名で構成しております。本日は、本部長並びに副本部長が出席しておりますので、紹介をします。
平井副町長	副本部長：平井副町長 平井でございます。町長からの挨拶からもありましたように、2年間お世話になります。 人口減少問題は、大きく取りだたされているところで、日本再生を地方再生から取り組もうという狙いのものです。非常に重要なテーマで、全国各地でこの総合戦略に取りかかっています。 皆さまのお知恵等を拝借しながら、この町、この国を守っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
平野教育長	副本部長：平野教育長 平野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
司会：広島総務部長	続いて、事務局の照会ですが、担当部長の広島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 全体を総括する担当主幹の那須、担当主査の竹下、森久保です。 那須総合計画主幹 竹下総合計画担当主査 森久保戦略担当主査

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
司会：広島総務部長	本日、委員の皆さまは初顔合わせということで、お手数ですが、その場でご起立の上、一言ずつ自己紹介をいただきたいと思います。 それでは、委嘱状の交付順にお願いいたします。
城委員	美幌町農協の城でございます。よろしくお願いいたします。現在は企画関係の仕事で、新規事業だとか食品加工を担当しております。 どうぞよろしくお願いいたします。
石川委員	美幌町森林組合の専務理事の石川でございます。私は元道職員でございまして、昨年４月に美幌に戻って参りました。まだ日が浅いですが、この４月から森林組合の職務に着いておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
横山委員	商工会議所の横山と申します。先月の１８日に当会議所の総会で専務理事の指名を受けまして、まだ日が経っていない状況です。皆さまにご迷惑をおかけしないようなかたちで、意見を述べさせていただこうと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。
信太委員	美幌観光物産協会の信太です。美幌和牛祭りの準備等をしておりました。よろしくお願いいたします。
岸田委員	美幌高校の岸田と言います。赴任して今年で３年目になります。どうぞよろしくお願いいたします。
吉江委員	網走信用金庫美幌支店支店長の吉江でございます。日頃より、美幌町、美幌町民のために仕事させていただいておりますが、今回このような委員に選んでいただいて光栄でございます。一生懸命取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。
村田委員	連合の村田です。私は昨年役場を退職しまして、現役の時に連合の事務局長、役場では執行委員長を担っていた関係で、今回特別執行委員として参画させていただきます。よろしくお願いいたします。
端委員	北海道新聞の端と申します。私は昨年北見に赴任してきてまして、まだ一年ということで、この地区のことをそれほど分かっているわけではありませんが、様々なところに転勤していますので、外部の目線から参画させていただきたいと思います。
松木委員	一般公募で応募させていただいた松木です。今は「びほろ笑顔プロジェクト」に所属しています。豚醬の「まるまんま」や４月から新発売させていただいた「豚ジンギスカン」を開発・製造しています。一緒に町おこしなどをしていきたいので、よろしくお願いいたします。
水島委員	一般公募の水島です。北中学校のＰＴＡ副会長を担当しております。町の青少年育成指導員をやらせていただいています。子育てをしてきた中で、思ったことなどをお話しできたらいいなと思います。よろしくお願いいたします。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
司会：広島総務部長	ありがとうございました。続きまして、推進委員会にオブザーバーとして、北海道オホーツク総合振興局地域政策部より、野村戦略策定支援担当部長が参画していただくことになっております。また、同じく地域政策課の斉藤主査が見えられておりますので、一言ずつお言葉を申し上げます。
野村部長	オホーツク総合振興局の野村でございます。私はこの４月から市町村の戦略策定の支援をするという、新設されたポジションに就いております。昨年度までは同じ振興局の林務課長をしておりましたが、４月から戦略担当ということでございます。こうした各市町村の会議に出ささせていただいておりますので、状況を踏まえて、それぞれの参考になるようなことがあれば、発言させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
斉藤主査	オホーツク総合振興局の斉藤と申します。よろしくお願いいたします。 会長、副会長の互選
司会：広島総務部長	次第に戻りまして、会長、副会長の互選についてです。 この会議の会長を選出したいと思います。 会長は、会務を総理し、審議会を代表する役割となっております。 任期は、委員の任期と同じく２９年７月１２日までとなります。会長の選任につきましては、「美幌町附属機関に関する条例」に規定しておりますとおり、委員の互選によって行うこととなっております。 推薦あるいは立候補などありましたら、ご発言をお願いします。
城委員	美幌町農協の城です。改めましてよろしくお願いいたします。会長、副会長の互選というお話ですが、私の思いであります、会長職にありましては、美幌町の現状の経済事情や事業に精通されている、美幌商工会議所の横山専務に是非お願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
司会：広島総務部長	いま、城委員から横山委員を推薦する声が上がりましたが、皆さまいかがでしょうか。 （「異議なし。」という声あり） では、異議なしということで、横山委員に会長をお願いしたいと存じます。 次に、副会長の選任ですが、横山会長、どなたかご推薦などありますでしょうか。
横山会長	城委員から推薦がありまして、会長をやらせていただきます。 副会長の推薦についてですが、先般、北海道新聞の記事を読んですと、女性管理職登用の関係のアンケート結果が出ておりました。そこでの課題を踏まえまして、また事務局担当も北海道から派遣されてきているということもありまして、皆さまのご賛同をいただければ、男女ペアで２年間やりたいと思っております。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	一般公募で応募いただいた、水島淳子さんに副会長にお願いしたいと思いますので、皆さま拍手を持って決めたいと思います。 （拍手）
司会：広島総務部長	ありがとうございます。それでは、水島委員に副会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。 会長、副会長に一言ご挨拶をいただきたいと思います。 （会長、副会長 席の移動）
横山会長	ご推薦いただきありがとうございます。ご挨拶を申し上げたいと思います。 町長、副町長のお言葉にもありましたが、再生を地方からということで、地方に対して手厚い支援を行う仕組みになっております。さらに、10月までに早く戦略を策定すれば、国の交付金の割り増しがあるということもございますので、それを含めまして皆さまのご協力をお願いしたいと思います。 地方創生は各地域で検討すること、住民が主体的に計画に加わるべき、ということでございますので、積極的なご支援をいただきたいと思います。よろしくお願いします。
水島副会長	よろしくお願いします。恐縮してしまいますが、女性だから言えること、女性だから思っていることを、建設的な意見を皆さまが出せるように、皆さんが笑顔でいられるように、会長の横で笑顔で頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。
司会：広島総務部長	ここで、町長が公務により退席させていただきますのでご容赦ください。 <町長退席> 以降の議事進行につきましては、さきほど選任されました横山会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
横山会長	大変堅苦しい会議となりそうですが、柔軟に対処していきたいと思いますので、皆さまのご協力をお願いします。 では、議事の5番目であります「まち・ひと・しごと創生総合戦略について」、事務局から説明をお願いします。
説明：那須総合計画担当主幹	改めまして那須といいます。よろしくお願いします。 今回お配りしている資料は、ボリュームがありまして、説明に時間がかかってしまいますが、ご容赦いただきたいと思います。 まず、書類番号1の資料をご覧ください。 昨年施行されました、「まち・ひと・しごと創生法」の公布により、都道府県及び市町村にはページ中ほどにありますとおり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するよう努めなければならないこととされたところであります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹	法の成立後、本町においては、庁内における分野横断的な組織設置についての検討を進めるなど、策定することで準備を進めていたところです。組織体制等については後ほどご説明しますとして、まず、この資料を基に地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について説明します。 1枚めくり、1ページの1 基本的な考え方の1には国が「長期ビジョン」と「総合戦略」を定めたことが記載されています。「長期ビジョン」とは、2060年に日本の人口を1億人程度確保する中長期展望を提示したもので、「総合戦略」とは、今年から2019年度までの5か年の政策目標や施策が記載されているものです。この2つの関係ですが、長期ビジョンで人口動態を分析し、将来的な人口目標値を定めまして、その目標値になるよう、総合戦略で定めた施策を実施する、といった関係にあります。 中段の2には地方公共団体における「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定について記載されています。また、2ページの（4）では、策定当たっては広く関係者の意見が反映されるようにすることが重要と記載されています。 3ページからは地方人口ビジョンについて記載されています。地方人口ビジョンは、国の長期ビジョンの期間である2060年までの作成を基本としながらも、国立社会保障・人口問題研究所の推計期間である2040年を目途とするなど地域の実情に応じて期間が設定できることなどが示されています。 5ページからは地方版総合戦略についての記載となり、対象期間は平成27から31年度の5年間であることなどが示されています。 次に、国と都道府県、市町村の関係ですが、「地方への多様な支援と「切れ目」のない施策の展開」というA4版横のカラー資料をご覧ください。これは、国が作成した資料でして、一番上のオレンジの部分、国の長期ビジョンと国の総合戦略と同じスタイルで、地方もビジョン・戦略を策定し、その策定に際しては国からの各種支援が用意されていることが示されたものです。 続きまして、資料2をご覧ください。 1枚目の裏面、下段になりますが、人口ビジョンでは人口の現状分析と将来展望をまとめることになり、目標年における人口数の見通しを記載することになります。 その右側に地方版総合戦略の構成イメージがありますが、ここには国の戦略に沿って4つの基本戦略が事例として記載されています。このようにいくつかの基本戦略を立て、その方向性を記載し、さらにその基本戦略の下に基本目標や基本的方向、そして施策を立てることになります。基本戦略や施策ごとにそれぞれ数値目標を立て、審査、検討、また更新する際の指標とします。 5ページをお開きください。こちらは地方人口ビジョンの策定イメージです。現状の分析と将来展望で構成されています。将来展望は、出生率等の上昇等による自然増と、移住者などの転入等による社会増によって、将来人口を展望するものです。 8ページをお開きください。「地方版総合戦略において記載する事項の参考例」とあり、これが地方版総合戦略のイメージとなります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹 横山会長	左上の青枠で囲まれた「１．地方における安定した雇用を創出する」とあるのが、基本戦略になります。（１）でその基本戦略の数値目標を立て、（２）でその基本的な方向性を記します。（３）の具体的な施策というところで、基本戦略の数値目標を達成するための対策を記載することになります。 ざっくりまとめますと、国が人口減少対策に係る法を施行し、併せて2060年までの人口ビジョンと今後5年間の総合戦略を立て、地方にもそれぞれビジョンと戦略の策定について努力義務を設け、美幌町としても、国のフレームに沿ったビジョンと戦略について策定をしようとしている、ということになります。 以上が「まち・ひと・しごと創生総合戦略について」の説明です。 事務局より説明がありましたが、何か質問等ありますでしょうか。 とても難しい内容でありますので、今後見直していただいた後でも、何かありましたら事務局にお聞きください。 それでは、次の議事に移ります。 「美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の体制について」の説明をお願いします。
説明：那須総合計画主幹	資料3をご覧ください。 当町のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定組織関係図になります。 先ほど司会から紹介のありましたとおり、「美幌町まち・ひと・しごと創生本部」を、町長を本部長として役場内に本年1月より設置しております。 一番下にあります「美幌町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム」ですが、これは役場内の実務担当者を集めたチームでして、町民からもらったアンケートやヒアリング結果などを参考にしながら、美幌版総合戦略に掲載する施策を提案・検討する組織となっており、本年2月に設置したところです。 そして、中間にありますのが、本日皆さまに委嘱させていただいた「美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会」になります。「産官学金労言等組織」とありますが、これについては、資料4「地方版総合戦略の策定に当たっての留意点」をご覧ください。これも国からの資料ですが、地方版総合戦略の策定に当たっては、2の「産官学金労言の参画」にあるように、各界から幅広い意見を取り入れるよう求められておりまして、そこに一般住民を含めた推進組織を立ち上げ、議論を進めることとなっています。 皆さまの役割としてお願いしたいのがこの部分でございまして、それぞれの立場において、自由なご発言をいただきたいと思います。 ちなみに、今回の会議は概要説明が中心となりますので、実質的な議論は次回以降の会議で行っていくこととなります。 次に「PDCAサイクルの整備」とありますが、ここも皆さまの重要な役割の一つになります。 PDCAサイクルとは、ご存じかと思いますが、簡単に説明させていただきますと、PLAN（プラン）、DO（ドゥー）、CHECK（チェック）、ACTION（アクション）の略でして、計画、実行、審査、改善のサイクルでもって、総合戦略を推進していくこととなっています。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹 横山会長	「計画」の段階で推進委員の皆さまに入ってください、その後、その結果を「審査」し、「改善」につなげていきますが、この「審査」の部分でも、皆さまに検証をしていただきます。 検証の結果において、総合戦略の見直しが必要であれば、改善に向けた計画づくりを議論していただく、といった感じで進めていきます。 総合戦略の策定は今年から始まる取組です。我々行政においても正直模索状態でありますので、皆さまと一緒にそのサイクルを創り上げ、人口減少問題に向かっていきたいと考えています。 以上が、策定組織についての説明です。 何か質問等ありますでしょうか。 私からひとつ。 この関係図において、庁内で設置されたプロジェクトチームと、推進委員会との関係はどのようなものか。プロジェクトチームの提案が創生本部に行き、それが推進委員会に降りてくるといったものなのか、それとも、プロジェクトチームと推進委員会で提案していくのか。この間に矢印がなかったので、気になったものですから。
説明：那須総合計画主幹 横山会長	プロジェクトチームは、今までに何回か会議を開いて、様々な提案を行いとりまとめをしたところですが、それを事務局で整理し、創生本部会議にかけまして、ある程度できあがったものを、この推進委員会に見ていただこうと思っています。直接プロジェクトチームとのやり取りは現在想定していません。 素案的なものが本部に出て、直接意見が本部会議に吸い上げられて、推進委員会の意見が反映されないで進められてしまうのではないかとこの懸念がありましたが、そこは問題ないのでしょうか。
説明：那須総合計画主幹 城委員	事務局からはあくまで素案を示しまして、それに対して当然ご意見をいただきますし、その意見を反映する場を作ります。ただ、後ほど説明しますが、今回は時間があまりないことから、今回策定するものについては、素案を見ていただくといった流れで進めてさせていただきたいと思っています。 ただ、先ほど説明しましたように、PDCAサイクルで随時見直しを図っていきますので、その時に計画段階から皆さまの意見を反映できるようにまとめていきたいと思います。 この推進委員会は審議会みたいなものか。
説明：那須総合計画主幹 横山会長 説明：那須総合計画主幹	そうですね、審議会の要素も含んでいますし、また意見を出して計画作りをするといったものも含んでいます。 それでは、次の議事に進みます。 気になるところの人口減少についてで、「美幌町の人口分析・将来推計について」、説明をお願いします。 資料5をご覧ください。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹	先ほど、人口ビジョンは、現状の分析と将来展望で構成することと説明しました。現状分析と将来人口を推計するための資料がこれです。 各分析結果を掲載しているのですが、ここではかいつまんで説明させていただきますと思います。 1 ページには、人口と世帯数の推移グラフが掲載されています。美幌町の人口は、5 年に一度の国勢調査では、昭和 6 0 年に人口 26,686 人として、年々減少しております。世帯数は、核家族化が進み平成 1 7 年調査までは増加しておりましたが、平成 2 2 年調査では減少に転じました。 3 ページには、年齢 3 区分別人口の推移グラフが掲載されています。 1 5 歳から 6 4 歳までのいわゆる生産年齢人口は年々減少しています。また、平成 1 2 年調査からは、6 5 歳以上の老年人口と 1 4 歳以下の年少人口が逆転しており、少子高齢化が進んでいることがわかります。 5 ページには、人口動態のグラフを掲載しております。こちらは国勢調査ではなく、住民基本台帳によるデータとなります。 上の折れ線グラフが転入と転出のグラフです。H 1 7 を除き、転入よりも転出が多い、転出超過の状態にあります。下の折れ線グラフは、出生と死亡のグラフです。こちらは死亡の方が多く、自然減の状態にあります。社会増減についても自然増減についても、どちらも減少しております。 人口を増やす、ということは、転入者を増やす、転出者を減らす、出生者数を増やす等の取り組みが必要になるということです。 6 ページをお開きください。これは、合計特殊出生率の比較表です。合計特殊出生率とは、一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す数値です。国の計算では、この数値が 2.07 を上回らないと人口が増加しないこととなります。直近のデータでは、美幌町は 1.64、北海道では 1.25 となっております。 合計特殊出生率は、都市部に行くほど低い数値となっており、北海道の数値が低いのも札幌市の数値が低いことによるものです。 1 5 ページをお開きください。 人口の推計値について、何パターンか推計値を算出したのがこの表です。 上から 2 段目のパターン 1 とあるのは、純粋な変化率推計によって算出したものです。推計は、国勢調査結果を用いた「コーホート変化率法」により推計したものです。「コーホート」とは、「同じ期間に生まれた人口の塊（同一出生集団）」を意味し、男女別・年齢 5 歳階級別人口ごとが「コーホート」となります。 そして、それぞれの「コーホート」ごとに 5 年間の増減率（変化率）を算出して、今後もその率が一定であると仮定し、直近の国勢調査年から 5 年おき（国勢調査年）の男女別・年齢 5 歳階級別人口を推計するもので、総人口は、男女別・年齢 5 歳階級別の推計値を合算したものです。 この、パターン 1 の推計値がベースとお考えください。これは今までの人口動態を純粋に反映した結果、すなわち、今後検討していく人口減少に係る施策を何もしなかった時の予想値となります。 これに対し、出生率の上昇等を加味して算出した推計値がパターン 2 から 4 となります。 パターン 2 は、現在の美幌町の出生率 1. 6 4 が、H 3 7 年に 1. 8 0 に、H 4 2 年に 2. 1 0 に上昇したときの推計。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹 横山会長	パターン３、４は、パターン２に加え、社会増減を緩和させたときの推計となっています。 ところで、人口の推計といえば、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計が有名ですが、今回、美幌町では独自推計値をベースにしております。社人研の推計も、国勢調査結果をベースとするコーホート推計ですが、先ほど説明した変化率法とは異なり、人口増減をもたらす各種の要因を独自に設定・仮定し、推計しています。また、社人研では、大都市への人口集中など、これまでの人口移動が今後収束することを仮定しています。つまり、美幌町は、転入・転出において転出超過の状態にありますが、今後、若者が中心となっている転出超過数が大幅に減少していくことを仮定した推計となっているものです。 また、ここには記載しておりませんが、日本創生会議（人口減少問題検討分科会）も人口の推計値を公表しました。分科会の座長が元総務大臣の増田さんだったことから、増田レポート、増田ショックなどとも呼ばれ、ご存じの方もいるのではないかと思います。日本創生会議の公表数値は、社人研が推計で仮定した「今後の人口移動の収束」がない場合の推計値であり、むしろ、変化率法に近い数値となっています。 人口推計には様々な方法や考え方があり、一概に「どの推計方法が最も正しい」とは言えません。 ただし、美幌町の場合、少なくとも過去１５年以内の３種類の変化率を用いた推計値に大きな違いがないことから、「近年の人口動態の状況が今後も継続した場合」の推計値として、変化率法による推計値は妥当性が高いと思われます。 この後に説明いたします、美幌人口ビジョン骨子では、このパターン１から４を用いて将来展望を行います。 以上が、美幌町の人口分析・将来推計についての説明です。 何かお聞きしたいことはありますか。 では、次の説明をお願いします。
説明：那須総合計画主幹	美幌町の人口ビジョンと総合戦略の骨子（案）についてですが、まずは資料６の人口ビジョンの骨子（案）をご覧ください。 内容的には様々な角度から分析した美幌町の人口動態が大半を占めていまして、その分析を踏まえて、目指すべき将来の方向性や人口の将来展望を定めることとなります。 人口の将来展望、つまり目標数値についてですが、目標年は２０４０年、今から２５年後の数値を定めることとなります。また、現在別途策定中の美幌町の最上位計画、第６期美幌町総合計画は、平成２８年から平成３８年までの１１年の計画で、その総合計画にも人口目標を設定します。その目標人口は、この人口ビジョンと同じ推計方法を用いて定めていきます。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹	骨子（案）２枚目の「２将来人口の推計と分析」をご覧ください。先ほど人口推計のところで説明しました。 パターン１から４までを掲載しております。改めてご説明しますと、推計①が、合計特殊出生率が今のまま推移し、過去の自然増減や社会増減の実績を踏まえてはじき出した人口の変化率だけを用いて推計したもので、これは人口減少の対策を何もとらなかった場合の純粋な推計値になります。これでいきますと、２０４０年には約１万２千人の人口となります。推計②以降は、様々な人口減少対策を実施したことにより、２０２５年、今から１０年後には合計特殊出生率が１．８に上昇し、さらに人口動態の変化率に手を加えて人口を増加させて推計したものです。この変化率の加算により、はじき出される数値が異なってきます。 その下の「分析」では、純粋な推計と比べて、年間どれだけの人数を増加させなければならないかの数値を記載しています。それぞれの違いについては、先に美幌町の目標値を説明したあとの方が分かりやすいと思いますので、後ほど説明させていただきます。 次のページをご覧ください。目標とする数値は、別に定める総合戦略で人口減少に資する施策を実施することによって、合計特殊出生率を２０３０年までに「２．１０」まで段階的に引き上げ、さらに人を呼び込み、定住させる対策として、Ｕターンや移住・定住促進、経済活性化等により、５歳から６４歳までの移動が約２割減少すると仮定しました。さらに自衛隊新部隊の配置などを盛り込み、１０年後の２０２６年には「１８，２１３人」、これでいきますと翌年の総合計画の目標年には「約１８，０００人」の人口となり、最終的に２０４０年には「１４，５００人」と推計され、これを人口目標値として設定したいと考えています。 このような目標値に設定しましたのは、前のページに戻りまして、下にある「分析」をご覧ください。 先ほど少し申し上げましたが、これは純粋な推計と比べて、年間にどれだけの人数を増加させなければならないかの数値です。増加と言いましても、自然増での人口増加は、１０年２０年で結びつくものではなく、たとえ現在の合計特殊出生率「１．６４」をただちに「２．１０」に引き上げたとしても、出生数は年間約４０人くらい増えますが、当町は高齢者の割合が高いため、それを上回る死亡者数が出ることから、自然増減の数値が人口増に結びつくことは先の長い話になります。 そのため、この表で示されている年間努力数値は、主に社会増での努力数値と見ていただきたいと思います。 その上で数値を見ますと、推計②では、純粋な推計値に比べて、年間で約８０人の人間を転出させない、若しくは転入させて定着させることが必要である、ということになります。 同様に、推計③では約１００人前後の、推計④では２００人程度の人数を、転出させない、若しくは転入後定着させることが必要となります。 先ほど、目標人口値として２０４０年には「１４，５００人」、１１年後には「１８，０００人」に設定したいと申し上げましたが、これは推計②を基本として設定しています。 この目標値でも、年間約８０人の努力数値となっているため、非常に厳しい目標値ではありますが、今後定める総合戦略により、人口減少に効果のある事業展開を行い、この目標を達成したいと考えておりますの

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹 広島総務部長	で、委員の皆さまには、この方向性でご検討いただけないかと考えております。以上でございます。 私からも補足の説明をさせていただきます。 純粋な推計と比べますと、25年後に、推計値より2,560人多く目標をおくこととなります。非常に高い目標だとは思いますが、現実には有効な策をどんどん盛り込んでいかないと簡単に達成できる数値ではないとも考えています。しかしながら、人口減少は地域のみならず日本というこの国の大きな課題でもあります。美幌町としても、積極的な対策を打ちながら、「14,500人」という目標値に向けて、この推進委員会お力も借りながら、息の長い施策で取り組んでいければと考えております。
説明：那須総合計画主幹	引き続きまして、資料7、総合戦略の骨子（案）をご覧ください。総合戦略は、人口ビジョンに定めた目標値にするために、今後5年間、平成31年度までに何をするかをまとめたものになります。 このフレームは国と北海道のフレームを参考にして作成していきまして、数値目標などは、今後5年間で実施する事業内容によって決まっていますが、フレームとしてはこのような形となります。 基本戦略は4つ、1つめが「地域での基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用場をつくる」で、産業活性による雇用創出などを目指します。 2つめが、「「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す」で、移住やIUターンの推進、政府関係機関の誘致などを目指します。 3つめが、「このまちで出会い結婚し、子どもを生み育てたいという希望をかなえる。」で、結婚・出産・子育ての切れ目のないサポートなどを目指します。 4つめが、「住み続けたいと思える生活環境を整える」で、人口流出を防ぐことなどを目指します。 以上が骨子となります。この4つ基本戦略にそれぞれ具体的な施策が並べ、総合戦略を完成させます。 骨子についての説明でしたが、人口ビジョンも総合戦略もおおよそ国や北海道の方針等に沿ったものになっています。 これが基本的な方向性となりますので、次回会議までにもう一度お目通しなどいただき、お気づきの点やご意見などありましたら、随時事務局までお寄せ頂ければ、と思います。よろしくお願いします。
横山会長 村田委員	人口ビジョンにつきましては、美幌町の将来推計と努力目標を掲げたものとなっていまして、総合戦略につきましては、国や北海道の方向性に沿ったものという説明がありました。 なにか質問等ありますでしょうか。 今の説明ですと、人口の目標値を決めて、それを達成するために対策を立てるとなっていました、逆ではないかと感じる。 美幌町でこれだけの対策がやれますよ、という計画を立てて、その結果、人口はこれぐらいに保てる、そういった流れではないのかなと。 どちらが正しいのか分かりませんが、人口目標値ありきでたてるなら、

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
村田委員 広島総務部長 野村戦略策定支援担当部長 村田委員 広島総務部長 横山会長	もっと大きい目標値を立てて、もっと色々なことをする計画になってしまうのではないかな。お金の関係だとか、自衛隊のこととか、現実的な問題はあるのですが、どちらなのかなと思いました。 たしかに、どちらが先かという問題はあろうかと思います。ただ、人口減少ということで、現状の流れを分析した中で、これからの推計でいけば25年後にはどの程度の人口が予想されるか、というところからスタートしている。 そこに8,000人加算するとか、今回は2,500人加算ですが、これについては様々な施策を打たなければならない。それがどの程度可能かという、その施策には全てクリアするための数値目標を定めなければならない、最終的には人口目標値を達成できるかどうかにある。 事業を実施して、その事業により何人増加したかの積み上げは難しいということもあり、その目標値がクリアできるかどうかは不透明な部分がありますが、事業が先ではなく、人口のビジョンを先に作らせていただいた。 どちらが先かといった話は、他市町村からお話のあった部分です。ただ、人口の対策を立てるためには、まずは人口の目標値を定めるといったことが通常の作り方かなと思います。広島部長からも話があったように、これぐらいの推計目標であれば、これだけの対策を打っていこうという流れになる。 たしかに、たくさん施策を打てば、これだけできるという考え方もあろうかと思いますが、まずは人口の目標を作って、それに向かってどのような対策を打つかという作り方が、一般的だと思います。 今までも人口減少の対策というのは、町で行ってきているものですが、その結果が下がってきているのが現状である。それを国や北海道が財政支援をしてくれるから持ち直せるんだ、というのであればいいのですが、本当にそこまで期待できるのか懸念されるところです。 期待の有無より、人口減少をどう食い止めるかが、国、北海道そして地方自治体も一緒になって取り組みましょうという方向で、この地方創生が打ち出されていますので、その形に沿って美幌町も進めていくために、この戦略を策定しているところです。お金のかかる部分がありますので、それは国の交付金で財源措置をしていくことになっています。 美幌町は今までももちろん、人口減少に関する対策を実施していますが、それにも増して今回は取り組んでいくということで、委員の皆さんのお知恵を借りながら、どのような戦略をもって人口減少に当たっていくか、検討をいただきたいと思います。 ありがとうございます。戦略につきましては、今後色々ともんでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。 続きまして、「策定スケジュールについて」説明をお願いします。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹	今後のスケジュールについて、資料8をご覧ください。 まず、戦略についてですが、この事業にかかる国からの交付金を受けるためには、本年10月末までに総合戦略を策定するという条件があります。美幌町ではこの交付金の申請を視野に入れ、10月末までの策定を目指しているところです。逆算しますと、9月中旬にはパブリックコメントを実施することとなりますので、実質、2か月間で戦略を確定させることとなります。 今月下旬から来月にかけて、複数回会議を開催させていただきたいと考えています。別途、日程確認表をお配りしておりますので、ご都合等を確認させていただきたいと思います。確認表は、後日ご提出頂きたいと思います。 また、戦略は、随時見直しが認められているところです。今回10月末まで時間が限られていることから、今回の申請までは、こちらから骨子、素案、案をお示ししていきたいと思いますが、申請以降については、皆様の意見を直接反映させていきたいと考えております。手法は検討中ですが、予算に影響する話でもありますので、秋ころから議論を行いたいと考えております。差し当たり、10月末までの進め方についてはご容赦いただきたいと思います。
広島総務部長	私から補足させていただきます。 昨年12月に出された先ほどの資料にもあったのですが、当初国からは今年度中に策定するように言われておりました。が、今年の4月に、今年度の交付金の条件が提示され、その条件の一つが10月末までに戦略策定をすることでした。 正直申し上げますと、かなりのタイトスケジュールですし、他自治体では10月末までの策定をしないということも多くございます。美幌町では、先ほど申し上げた庁内プロジェクトチームが検討した事業の中には、今年度から実施できそうな事業もありそうだ、ということもあり、10月末までの策定に向けて目指しているところです。 この推進委員会は、PDCAサイクル全てに関わっていただくこととなりますので、本来であればP、つまり計画段階から多く意見を頂戴して進めるのが本来かと承知しておりますが、今回は時間がないところですので、ある程度の行政の案をご確認いただく、ということになります。 しかし、先ほど主幹から説明がありましたように、10月末の策定以後は、戦略の見直しが可能です。皆様と本格的な計画議論を行うのはその時から、ということになるかと思います。何卒趣旨をご理解の上ご協力いただきたいと思います。
横山会長	ありがとうございます。 何かありますでしょうか。 それでは、次の議事に移ります。 最後になりますが、「美幌町人口減少対策に関する意向、意見集」の説明をお願いします。
説明：那須総合計画主幹	お手元にごございます冊子についてです。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
説明：那須総合計画主幹	こちらは、昨年総合計画策定の際に実施したアンケート結果のうち人口減少対策に該当する部分を抜粋したものや、保育園の父兄へのアンケート、美幌高校生徒会の皆さんへの出前ヒアリングの結果等を取りまとめたものです。 色々な希望やご意見が掲載されております。ご覧いただき、参考としていただければと存じます。
横山会長	ページ数も膨大でございますので、次回の会議までに一通り目を通していただければと思います。 何か聞きたいこと等ありますでしょうか。 議事が一通り終わりましたので、全体を通して何かありますでしょうか。
城委員	資料6の人口ビジョンにおいて、2030年までに合計特殊出生率を「2.10」にあげるという設定になっていますが、この「2.10」というのは、日本が第2次ベビーブームのときでそれくらいの数字だった記憶している。 15年でその水準まで上げていくというのは、目標は高い方が良いのかもしれないが、あまりに高過ぎやしないか懸念がある。
那須総合計画主幹	資料5にある合計特殊出生率を見ますと、美幌町は全道や近隣と比べると高い方となっています。国の目標では「2.07」に設定しており、それを勘案し、少し高めの目標としたい。
広島総務部長	数値としては確かにとても高い目標値となっています。ただ、人口減少のための対策なので、人口を維持できない水準の数値を設定することは難しいこともあり、高めの目標としています。
森久保総合戦略担当主査	保育園や幼稚園の保護者の方々を対象にしたアンケート調査を実施してまして、お配りしている「意向、意見集」の17ページにその結果を掲載しています。 これを見ますと、現在の子どもの数が平均「2.19」人、希望する子どもの数は何人と聞いたところ、多くの保護者が「もう一人欲しい」という結果が出ております。しかも、希望が高い方たちが多く、3人いても4人目がほしいとか、中には多ければ多いほど良いという方もいらっしゃいました。 経済的な状況が許せば何人でも欲しいという保護者が、美幌町は多いので、合計特殊出生率「2.10」という数値は高いと思いますが、目指せない数値ではないとも思っています。
城委員	「2.10」に上がるのは15年後であるので、今の小中学生や高校生が主役になってくるとすると、このアンケート結果がそのまま適用されるとは思わないので、やはり目標値としては高いのかなという懸念があります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
森久保総合戦略担当 主査	そうですね、しかし、今からその対策を実施して人口減少を食い止める流れを作っていくということを、今から行うことが大切だと思っています。
横山会長	3人のお子さんをお持ちの松木さんはいかがですか。
松木委員	そうですね、兄弟は多い方が良いのかなと思います。兄弟同士で連携をとりますし、関係性も築けますし。 その多くの子どもを産むことについて何か申し上げるとしたら、子どもを産むための環境が必要だと思います。子どもが親の目を離れて遊べる環境や、保護者の働く環境が整えられていれば、もう一人産んでも子育てできるのかなと思います。
横山会長	水島委員も3人のお子さんをお持ちで、PTA副会長を担っているということで、どうでしょうか。
水島副会長	私は、子どもが中学生1人、小学生が2人おります。将来的なビジョンを考えたときに、育てた子どもたちが、この美幌町に何人残ってくれるか、何人子どもを産んでくれるかを思うと、私たち育てる側が、美幌で働きたい、美幌に戻ってきたい、美幌で子育てしたいという町にしていけば、その数値も可能なのかなと思います。お母さん方が子どもを産み育てていきたいという環境を続けていけば、その子どもたちがどう残っていくかの環境が重要になってくると思います。
横山会長	教育の環境でいえば、岸田委員は美幌高校の校長でいらっしゃいますが、生徒たちがここに残るためには、産業界の活性化が不可欠ではあると思いますが、いかがでしょうか。
岸田委員	キャリア教育の部分については、企業マップの作成を私が赴任した当初から要望していたところです。今年何とかそれが形になりそうだというところまでできました。美幌町民が美幌の企業を全然知らないという状況で、生徒にインターンシップの希望をとっても、知っている企業、大きな企業しか希望しないという状況になっている。 企業マップができれば、企業別だけでなく業種別なども見るできるので、中学校でも使用できると思っています。中学生も行く範囲が限られているので町のこともよく知らない、それもあって子どもたちに町内の企業を周知する必要があると思っています。 また、学校数が減りましたので、高校と中学校との関わりを持たせるようにしているところです。絵としては大きいものを描いていますので、学校だけでというのは難しい問題です。 生徒数も減っています。大空町や津別町の学校をなくして美幌町だけ残ればいいのか、それともその逆ならいいのかという大きな問題もある上、地元に残すということは、今度は北見の学校が定員割れを起こすという事態になるでしょう。いま、地元の中学生の50～60%が当校に來ていますが、その比率が上がれば、北見の学校は苦しい状況になります。残すということは、これも一つの答えとなります。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	ありがとうございます。他の方々からも、感想を含めた意見をいただきたいと思います。
石川委員	私は久方ぶりに美幌町に戻ってきたものですから、人口減少がこれほど進んでいるとは知らなかった。森林組合は若い方が多いため、将来的に仕事があるのか、それだけの仕事量を保っていけるのかといった不安があります。そこを今後の話し合いの中で意見を出し、見いだしていきたいと思います。
信太委員	観光産業の仕事をしていますので、美幌町にどうしたらやってくるのか、という視点でいますので、外から来るお客様には、毎日頭をひねっているのですが、固定させるために何をしたらいいのかを、観光の部分やその視点を持って、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
吉江委員	美幌に戻ってきて1年が経ちましたが、以前と比べて美幌の町が小さくなったという印象を受けました。我々の職業は、色々なところを転勤するのですが、だいたい歓楽街が元気なところは町も元気であるという印象があります。ある意味その町の経済のバロメーターでもあると考えています。 以前美幌町にいたときは、美幌の人たちは飲むことが好きな人が多いなと思いました。当行は飲み屋街に近いこともあり、それを感じていたのですが、今回戻ってきましたら、それほど人が出ていない。町が小さくなったと感じたことの一つであります、私が町を見ると、人と企業を見ます。 そこで人口減少問題を考えたとき、人口を増やすのはなかなか難しいことだと思っています。しかしかにか抑えるか、なだらかにするかを、人と企業といった視点を持ち、考えていきたいと思います。
端委員	資料を拝見して、このままでいくと2060年となると美幌町は1万人を切ると出ておりまして、45年後ですので、自分自身はいないのですが、数字的には衝撃的なものでした。地方行政として危機的な状況になると思います。意識を新たにして、どのようなことができるのか、考えていきたいと思います。
野村戦略策定支援担当部長	先ほどの合計特殊出生率について、国と北海道の考え方についてご説明させていただきます。 事務局からも説明がありましたが、「2.07」というのは、人口が維持できる水準とされています。2人誕生して、亡くなられる方がいますので、その均衡を保てるのが「2.07」以上となりますが、これを切ってしまうと、人口は減少していくことになります。 また、国では2030年に「1.80」、2040年に「2.07」としてきますのは、2060年には人口1億人を保つとしたときの試算で出てきたものでございます。そのため、「2.07」を下回る試算は、そもそも町が消滅してしまうことを示していますので、その段階的に上げていく時期がいつかという問題はあると思いますが、それを別として、国の試算値「2.07」を目標にしていくべきだと思います。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	皆さまから貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。 次回の会議に向け、皆さんの方から事前に欲しい資料がありましたら、事務局に言っていただきたいと思います。日程調整表とともに記載していただければと思います。
那須総合計画主幹	今週末（１７日）までをお願いします。 日程調整表をいただきましたら、それを元に、次回会議の案内を出させていただきますので、よろしくお願いします。会議の案内については、メールが可能な方であれば、メールで出させていただきます。
横山会長	本日予定されていた会議は全て終わりましたので、終了させていただきます。 ９月の中旬までにはこの戦略を決めるということですので、複数回会議が開催されると思いますので、時間の許す限り、皆さまには会議への参加をお願いします。 本日は皆さま、お疲れ様でした。 了